

2026年度 総合仏教研究所 特別講座

佛教が伝えた瞑想

—歴史的な展開とその意義を考える—

講師 **蓑輪 顕量** 先生
(立正大学教授・東京大学名誉教授)

本研究所では特別講師に蓑輪顕量先生をお迎えし、下記の日程で講義を開催いたします。
どなたでも聴講できますので、ふるってご参加ください。(聴講無料・予約不要)

[時間] **17:00～18:40**(5時限目)

[場所] **総合仏教研究所研究室1**(3号館4階)

- | | |
|----------------|-------------------------------|
| 第1回目 5月15日(金) | インドにおけるヨーガと釈尊の瞑想 |
| 第2回目 5月29日(金) | 釈尊の見出した道 —念と念処— |
| 第3回目 6月12日(金) | 念処から止観へ —七覚支はキーポイント— |
| 第4回目 6月26日(金) | 中観と瑜伽行派の瞑想
—『般若経』の目指した世界— |
| 第5回目 7月10日(金) | 東アジア世界に伝播した瞑想
—中国道教瞑想との比較— |
| 第6回目 7月24日(金) | 日本における平安初期の瞑想
—徳一と最澄— |
| 第7回目 10月9日(金) | 中世における禅宗の伝える瞑想
—臨済禅と曹洞禅— |
| 第8回目 10月30日(金) | 近世における各宗の瞑想
—白隠と日臨を軸に— |

【講義概要】

佛教が伝えた瞑想は念という名称と呼ばれやがて念処、止観と展開した。瞑想の基本は変わらないが、観はその内実には変化がみられる。

瞑想の目的は私たちの心の自動的な反応(戲論)を抑制すること、および良質な価値観を身に付けること、他者との関係性を構築することにあると位置づけられる。それがどのように変遷して今の日本仏教にまで伝えられているのか、インド、中国、日本の三国で考えてみたい。本講義は、密教にも若干触れるが、教学ではない修行という視点から仏教を捉えなおす試みである。

【問い合わせ先】 大正大学総合仏教研究所 03-3918-7311(代表)

https://www.tais.ac.jp/library_labo/sobutsu/

※日程等に変更が生じた場合は、随時、上記HP上にてご案内いたします。